

富山県花総合センターのあり方について



■富山県花総合センターの概要

敷地: 27,060m² / 建物: 本館、展示温室等10棟 2,241m²

建築年: 昭和61年 開園: 昭和62年

設置目的: 花に関する情報を総合的に提供し、花の生産拡大と花に親しむ意識の高揚を図る



◇施設の課題

施設・設備の老朽化等に伴い、維持管理コストが増嵩 → **施設の今後のあり方検討**



所在地: 砺波市高道

■施設の今後のあり方について、委託調査のうえ施設・機能の両面から検討

- ・現在の機能は県や市の既存施設に集約可能
- ・施設老朽化が進み、将来の維持に必要な経費が膨大

⇒ **令和8年度末をもって施設廃止**

効果

- ▣ 機能を集約する既存施設それぞれの魅力向上
- ▣ 施設維持経費の節減 年間1億円以上（見込み）

公共施設等総合管理方針で定める保有総量の適正化にも資する

参考 今後の維持管理費用等の試算

(令和9年度以降10年間の経費)

- 当面の施設維持に必要な修繕費 (令和9年～13年)
+ その後の設備更新等に係る費用 (令和14年～18年)

5億円

- 指定管理費用見込み

6億6千万円

- 機能集約に係る費用

△1億円

⇒ 廃止した場合の節減額10億6千万円